

定期接種

4種混合ワクチン

予防する病気 ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ
ジフテリア

のどや鼻、目の結膜など粘膜に起こる病気です。ジフテリア菌の出す毒素によって心臓の筋肉が炎症を起こし突然死する危険性があります。またのどが腫れて呼吸ができなくなり死亡することもあります。近年日本国内では患者さんの発生はありませんがワクチン接種率が低下した国では流行がありましたので日本でも油断は禁物です。

百日咳

特徴的な激しい咳が続く病気です。肺炎や脳症を起こし後遺症が残ることがあります。特に幼若乳児は重症化しやすく無呼吸などで死亡することもあります。最近では成人の感染が増加し乳児への感染源となっています。

破傷風

土壌中の破傷風菌が傷口から感染しておこります。顔面の硬直や全身のけいれんが起き呼吸ができなくなることもある致死率の高い病気です。ワクチン接種によってのみ十分な免疫ができます。

ポリオ

ポリオウイルスは口から感染するウイルスで感染しても多くは（95%くらい）無症状ですが発症すると手足が麻痺したり呼吸する筋肉が麻痺すると呼吸ができなくなり命にかかわることもあります。日本では30年以上自然感染の患者さんは発生していませんがそれはみんながワクチン接種を受けているからです。

ワクチン接種

生後3か月より接種を開始し3~8週間間隔で3回接種（初回接種）しその後約1年後に4回目の接種（追加接種）を行います。さらに小学6年生で2種混合ワクチン（ジフテリア、破傷風）を1回接種（2期接種）します。